

谷 富夫教授 略歴

昭和26年11月18日 北海道砂川市に生まれる。

学 歴

昭和45年3月 北海道砂川南高等高校卒業
 昭和46年4月 北海道大学（文系）入学
 昭和47年2月 北海道大学退学
 昭和47年4月 九州大学文学部入学
 昭和52年3月 九州大学文学部哲学科社会学専攻卒業
 昭和52年4月 九州大学大学院文学研究科修士課程社会学専攻入学
 昭和54年3月 九州大学大学院文学研究科修士課程社会学専攻修了
 昭和54年4月 九州大学大学院文学研究科博士後期課程社会学専攻進学
 昭和55年8月 九州大学大学院文学研究科博士後期課程社会学専攻中途退学

職歴等

昭和55年9月 金沢大学文学部助手（昭和58年1月まで）
 昭和58年2月 九州大学文学部助手（昭和59年3月まで）
 昭和59年4月 広島女子大学文学部講師
 昭和61年4月 広島女子大学文学部助教授（平成4年3月まで）
 昭和62年10月 大阪大学客員研究員（国内研修，昭和63年3月まで）
 平成4年4月 大阪市立大学文学部助教授
 平成5年12月 博士（文学）の学位取得（九州大学，論文「聖なるものの持続と変容」）
 平成11年4月 大阪市立大学文学部教授
 平成13年4月 大阪市立大学大学院文学研究科教授
 平成14年4月 21世紀COEプログラム「都市文化創造のための人文的研究」事業推進担当者（平成19年3月まで）
 平成19年4月 大阪市立大学大学院文学研究科長・文学部長（平成21年3月まで）
 平成19年4月 グローバルCOEプログラム「文化創造と社会的包摂に向けた都市の再構築」事業推進担当者（平成24年3月まで）
 平成23年3月 大阪市立大学退職
 平成23年4月 大阪市立大学名誉教授
 平成29年9月 日本都市社会学会賞（磯村記念賞）受賞（著書『民族関係の都市社会学』）

長崎県立国際経済大学／広島修道大学／宮崎大学／奈良教育大学／奈良大学／奈良女子大学／島根大学／佛教大学／光華女子大学／近畿大学／山口大学／同志社大学／桃山学院大学／京都大学／熊本大学／愛知県立大学／久留米大学／広島大学／帝塚山学院大学／沖縄国際大学／金沢大学／神戸大学／大阪市立大学／ノートルダム清心女子大学／関西学院大学／九州大学で，非常勤講師を務める。

甲南大学における経歴

平成23年4月 甲南大学文学部教授
 令和2年3月 甲南大学定年退職

甲南大学・甲南学園における主な役職

平成26年4月	甲南大学文学部社会学科主任 (平成27年3月まで)
平成29年4月	甲南大学大学院人文科学研究科応用社会学専攻主任 (平成30年3月まで)
平成30年4月	甲南大学文学部長 (令和2年3月まで)
平成30年4月	学校法人甲南学園理事 (2号) (令和2年3月まで)
平成30年4月	学校法人甲南学園評議員 (5号) (令和2年3月まで)

主な研究活動

昭和51年～	宗教社会学
昭和52年～	都市社会学
昭和54年～	沖縄研究
昭和62年～	民族関係論

学会活動

西日本社会学会	昭和52年入会。評議員，理事，監事。編集委員会，研究活動委員会の委員を歴任。
日本社会分析学会	昭和52年，前身の「九州大学社会学会」に入会。理事，監事。
西日本宗教学会	昭和52年入会，平成4年退会。
日本社会学会	昭和54年入会。常務理事，理事3期。編集委員会，社会学教育委員会等の委員を歴任。
日本宗教学会	昭和54年入会，平成22年退会。
日本都市社会学会	昭和56年学会設立と同時に入会。会長2期 (通算4年)。常任理事，理事。事務局長，編集委員長，学会賞選考委員長等を歴任。
宗教社会学の会	昭和57年入会。
民族関係研究会	平成4年4月より平成12年3月まで主宰。
関西社会学会	平成4年入会。会長1期 (3年)。常任理事，理事4期満了。研究活動委員会，大会奨励賞選考委員会等の委員を歴任。
「宗教と社会」学会	平成5年学会設立と同時に入会。
移民政策学会	平成20年学会設立と同時に入会。

社会における活動

- 「生野オモニハッキョ」(在日朝鮮人を対象とする日本語識字教室)のボランティア講師 (昭和62年10月～現在)。
 マッセOSAKA (おおさか市町村職員研修研究センター) 主催共同研究「国際交流」チームのリサーチ・アドバイザー (平成9年4月1日～平成11年3月31日)。
 日本学術振興会特別研究員等審査会専門委員 (平成12年8月1日～平成14年3月31日，平成22年8月1日～平成23年7月31日)。
 日本学術振興会特別研究員等審査会委員 (平成14年3月1日～平成16年3月31日)。
 財団法人大学基準協会大学評価委員会社会学系第3専門評価分科会委員 (平成19年4月1日～平成20年3月31日)。
 独立行政法人大学評価・学位授与機構国立大学教育研究評価委員会専門委員 (平成20年4月1日～平成22年3月31日，平成28年1月1日～平成29年3月31日)。
 一般社団法人社会調査協会代議員 (平成21年5月～現在)，編集委員長 (平成23年5月～平成27年5月)，理事 (平成24年5月～現在)。
 日本学術会議連携会員 (平成23年10月3日～平成29年9月30日)。
 日本学術振興会科学研究費委員会専門委員 (平成24年1月1日～平成25年12月31日，平成29年1月1日～平成29年12月31日)。
 大阪市立大学医学部附属病院臨床試験・治験審査委員 (平成27年6月1日～平成29年3月31日)。

大阪市立大学先端的都市研究拠点運営委員会委員（平成28年4月1日～現在）.

大阪市立大学テニユアトラック普及定着事業審査委員会委員・選考委員会委員（平成28年11月1日～現在）.

関西学院大学先端社会研究所事業評価委員（平成29年2月1日～平成29年7月30日）.

谷 富夫教授 業績一覽

著 書

- 1989年 『過剰都市化社会の移動世代——沖縄生活史研究』 溪水社。
 1994年 『聖なるものの持続と変容——社会学的理解をめざして』 恒星社厚生閣。
 2015年 『民族関係の都市社会学——大阪猪飼野のフィールドワーク』 ミネルヴァ書房。

編 著

- 1996年 『ライフ・ヒストリーを学ぶ人のために』 世界思想社。
 2002年 『民族関係における結合と分離——社会的メカニズムを解明する』 ミネルヴァ書房。
 2008年 『新版 ライフヒストリーを学ぶ人のために』 世界思想社。
 2009年 『よくわかる質的社会調査——技法編』 (共編) ミネルヴァ書房。
 2010年 『よくわかる質的社会調査——プロセス編』 (共編) ミネルヴァ書房。
 2014年 『持続と変容の沖縄社会——沖縄的なるものの現在』 (共編) ミネルヴァ書房。
 2020年予定 『社会再構築の挑戦——地域・多様性・未来』 (共編) ミネルヴァ書房。

論 文

- 1979年 「集団改宗の原理と過程に関する一考察——五島キリシタン村落と大本」 日本社会学会『社会学評論』第30巻第3号, 42-60ページ。
 1979年 「準抛卒研究の構想——世俗社会の『宗教過程』へむけて」 九州大学社会学会『社会学研究年報』第9号, 97-103ページ。
 1980年 「創価学会をめぐる人間類型」 九州大学社会学会『社会学研究年報』第10・11合併号, 121-133ページ。
 1981年 「旧キリシタン村落の社会構造と信念体系」 『金沢大学文学部論集 行動科学科篇』 創刊号, 21-44ページ。
 1984年 「地方都市における定住志向」 九州大学文学部『哲学年報』第43輯, 139-170ページ。
 1985年 「移動世代の生活史(前編)——過剰都市化の一断面」 『広島女子大学文学部紀要』第20号, 63-80ページ。
 1985年 「混住化社会の初発的非行」 二宮哲雄・中藤康俊・橋本和幸編『混住化社会とコミュニティ』 御茶の水書房, 267-285ページ。
 1985年 「朝鮮寺と巫俗」 宗教社会学会編『生駒の神々——現代都市の民俗宗教』 創元社, 236-258ページ。
 1987年 「神秘から宗教へ——真光に集う若者たちの世界」 畑中幸子編『現代のこころ——崇教真光』 旺文社, 107-116ページ。
 1988年 「大都市郊外のコミュニティ意識」 社会分析学会『社会分析』第17号, 247-283ページ。
 1988年 「丸山——社会構造・リーダー・生活構造」 社会分析学会『社会分析』第17号, 157-180ページ。
 1989年 「民族関係の社会学的研究のための覚書き——大阪市旧猪飼野・木野地域を事例として」 『広島女子大学文学部紀要』第24号, 63-86ページ(駒井洋編, 1996『日本のエスニック社会』 明石書店, 331-375ページに再録)。
 1989年 「日本社会の現在——日本人の聖と俗」 社会分析学会編『社会学の現在』 恒星社厚生閣, 157-172ページ。
 1991年 「宮島にみる瀬戸内の信仰と宗教」 大林太良編『瀬戸内の海人文化』(『海と列島文化』第9巻) 小学館, 157-192ページ。
 1992年 「エスニック・コミュニティの生態研究」 鈴木広編『現代都市を解読する』 ミネルヴァ書房, 260-283

- ページ.
- 1992年 「ある在日韓国女性信仰-生活史——猪飼野調査より」 塩原勉編『宗教行動と社会的ネットワーク——現代日本におけるネットワークの研究』（科研報告書）大阪大学人間科学部，268-293ページ.
- 1992年 “A Study of Inter-ethnic Relationships: The Growing Ethnic Complexity in the Japanese City”, *The Japan Sociological Society, International Journal of Japanese Sociology*, No.1, Pp.115-135（「都市国際化と『民族関係』」と題して，中野秀一郎・今津孝次郎編，1993『エスニシティの社会学』世界思想社，2-25ページに再録）
- 1993年 「新宗教青年層における呪術性と共同性——崇教真光を事例として」 南山大学『アカデミア』第57号，149-271ページ.
- 1994年 「宗教理解と社会構造」 金屋平三編『変貌する世界と社会学』法律文化社，57-78ページ.
- 1995年 「定住外国人との民族関係——大阪市生野区の事例」『都市問題』第86巻第3号，31-43ページ.（「民族関係のエスノグラフィー」と改題して，八木正編，1996『被差別世界と社会学』明石書店，79-95ページに再録）
- 1995年 「在日韓国・朝鮮人社会の現在——地域社会に焦点をあてて」 駒井洋編『定住化する外国人』（『講座外国人定住問題』第2巻）明石書店，133-161ページ.
- 1995年 「エスニック社会における宗教の構造と機能——大阪都市圏の在日韓国・朝鮮人社会を事例として」 大阪市立大学文学部紀要『人文研究』第47巻，1-18ページ.（「エスニック宗教を支える『骨格』」と改題して，木下謙治他編，2002『地域社会学の現在』ミネルヴァ書房，130-149ページに再録）
- 1996年 「ライフ・ヒストリー法の『原則的理解』」『日本都市社会学学会年報』第14号，31-42ページ.
- 1997年 「宗教観光都市の共同規制——宮島の人と社会」 大阪市立大学文学部紀要『人文研究』第49巻，123-171ページ.
- 1997年 「旧来外国人型自治体の外国人政策と最近の意識調査——大阪府」 駒井洋・渡戸一郎編『自治体の外国人政策——内なる国際化への取り組み』明石書店，339-364ページ.
- 1998年 「エスニシティ研究における『世代間生活史法』の試み」 札幌学院大学社会情報学部紀要『社会情報』第7巻第2号，183-195ページ.
- 1999年 「在日韓国・朝鮮人家族の『世代間生活史』——問題と方法」『人文研究』第51巻第9分冊，21-44ページ.
- 2000年 「社会学から見た都市論——都市エスニシティ論の新しいアプローチ」『都市問題研究』第52巻第9号，82-95ページ.
- 2001年 「都市の民族関係に関する中範囲の理論化」 金子勇・森岡清志編『都市化とコミュニティの社会学』ミネルヴァ書房，272-288ページ.
- 2001年 「現代社会と宗教」 秋元律郎・倉沢進・岩永雅也編『社会学入門』放送大学教育振興会，201-220ページ.
- 2002年 「定住外国人における文化変容と文化生成」 宮島喬・加納弘勝編『変容する日本社会と文化』（『国際社会』第2巻）東京大学出版会，201-228ページ.
- 2002年 「エスニシティ研究と世代間生活史調査」 関西社会学会『フォーラム現代社会学』創刊号，70-80ページ.
- 2003年 「大阪都市圏における『民族関係』の問題」 岩崎信彦他編『海外における日本人，日本のなかの外国人』昭和堂，116-130ページ.
- 2004年 “Toward a Social Theory of Ethnicity and Inter-ethnic Relationships”, 『人文研究』第55巻第3分冊，17-36ページ.
- 2004年 “Old Korean Residents in Japan and Their Religious Culture and Social Structure”, *Urban Culture Research*, Vo.2, Pp.77-97.
- 2005年 「社会学教育のなかの質的調査」『西日本社会学学会年報』第3号，15-27ページ.

- 2006年 「民族関係意識と地域社会——韓国・仁川市住民の結合志向と分離志向」(共著) 日本社会分析学会『社会分析』第33号, 131-148ページ.
- 2006年 「大都市と民族関係」大阪市立大学文学研究科叢書編集委員会編『近代大阪と都市文化』清文堂, 81-97ページ.
- 2009年 「東アジア大都市の外国人労働者と民族関係」佐々木雅幸・水内俊雄編『創造都市と社会包摂——文化多様性・市民知・まちづくり』水曜社, 253-265ページ.
- 2010年 「生活誌の豊かさ——宮本常一『忘れられた日本人』」井上俊・伊藤公雄編『日本の社会と文化』(『社会学ベーシックス』第10巻), 世界思想社, 137-146ページ.
- 2011年 「沖縄の過剰都市化——仮説検証の試み」谷富夫編『那覇都市圏の過剰都市化に関する社会学的研究』科研報告書, 大阪市立大学, 15-30ページ.
- 2013年 「都市とエスニシティ——人口減少社会の入口に立って」『日本都市社会学学会年報』第31号, 35-60ページ.
- 2014年 「鈴木社会学と創価学会」『社会分析』第41号, 103-114ページ.
- 2014年 「生野コリアタウンは『韓流ブーム』によって——阪神圏商店街実態調査から」(共著)『コリアンコミュニティ研究』第5号, 65-82ページ.
- 2017年 「民族関係のリアリティを求めて」鳥越皓之・金子勇編『現場から創る社会学理論』ミネルヴァ書房, 25-34ページ.
- 2017年 「民族関係論の成果と課題」阿部昌樹・水内俊雄・岡野浩・全泓奎編『包摂都市のレジリエンス——理念モデルと実践モデルの構築』水曜社, 70-80ページ.

調査報告書

- 1978年 「市民意識と指導者層」(共同執筆)九州経済調査協会編『直方都市圏の成長と市民生活の長期構想』直方地域開発懇談会, 159-161ページ; 179-192ページ.
- 1980年 「留学生の研究・生活の現状と問題点」国際商学学生協会九州地区委員会『九州における外国人留学生の現状と課題』29-132ページ.
- 1981年 「『Uターン世代』の生活史——那覇都市圏のUターン類型試論」鈴木広編『過剰都市化の社会学的研究』九州大学社会学研究室, 33-49ページ.
- 1982年 「問題意識と研究の概要」金沢大学社会学研究室編『現代地方都市の住民類型と地域変動——野々市の人と社会』1-5ページ.
- 1983年 「天草カトリック漁村の過疎と溶解」荒木博之編『カトリック村落に於ける村落構造・価値意識・宗教現象に関する民俗・宗教学的・社会学的研究』(昭和57年度文部省科研費補助金(総合研究A)研究成果報告書), 37-44ページ.
- 1984年 「県民の生活態度」福岡県『昭和58年度福岡県民意識調査——県民の生活課題と県政への期待』31-63ページ.
- 1984年 「都市の少数民族と民俗宗教」庭野平和財団『昭和58年度研究・活動助成報告集』80-84ページ.
- 1986年 「消防団と地域社会」九州経済調査協会『福岡地方における水害情報の蓄積伝播の研究』80-89ページ.
- 1986年 「水害とコミュニティ意識」九州経済調査協会『福岡地方における水害情報の蓄積伝播の研究』157-174ページ.
- 1988年 「川崎市のコミュニティ施策」鈴木広編『大都市コミュニティの可能性』社会分析学会, 15-18ページ.
- 1988年 「横浜市のコミュニティ施策」鈴木広編『大都市コミュニティの可能性』社会分析学会, 19-24ページ.
- 1991年 「コミュニティ意識——モラルとノルム」篠原隆弘編『地方産業都市における地域社会状態の比較分析——「コミュニティ診断学」の構築をめざして』鹿児島大学法文学部, 90-117ページ.
- 1993年 『高齢者にとっての安全な町づくりに関する調査研究報告書』兵庫県長寿社会研究機構.
- 1994年 「在日韓国・朝鮮人の生活史——調査の目的と方法」定住外国人問題研究会編『定住外国人に関する

- 意識調査報告書』1-15ページ。
- 2000年 『民族関係における結合と分離の社会的メカニズム』（編著，科研報告書）大阪市立大学。
- 2002年 「帯広畜産大学の地域連携」文屋俊子編『地域社会と大学』（科研報告書）福岡県立大学，30-42ページ。
- 2006年 『「質的な分析の方法に関する科目」の授業内容に関する調査報告書』日本社会学会社会学教育委員会。
- 2006年 『東アジア大都市の資本制文化と人間』（編著）COE 大阪市立大学都市文化研究センター。
- 2006年 「大阪市民意識調査の目的と概要」西村雄郎編『エスニック・コミュニティの比較都市社会学』（科研報告書）広島大学，563-564ページ。
- 2011年 『那覇都市圏の過剰都市化に関する社会学的研究』（編著，科研報告書）甲南大学。

翻 訳

- 2011年 サスキア・サッセン「危機の時代のグローバル・シティ——金融危機から社会問題まで」大阪市立大学都市文化研究センター編『都市の歴史的形成と文化創造力』（大阪市立大学文学研究科叢書Ⅶ）清文堂，171-197ページ。
- 2016年 ネイサン・グレイザー「多様性」『スクリプナー思想史大事典』第6巻，丸善出版，2221-2225ページ。

事 典

- 1990年 「社会階層とのかかわり」井上順孝他編『新宗教事典』弘文堂，49-55ページ。
- 2000年 「生活史研究」地域社会学会編『キーワード地域社会学』ハーベスト社，50-51ページ。
- 2007年 「聖なるものの持続と変容」『宗教学文献事典』弘文堂，229ページ。
- 2014年 「民族関係」『社会調査事典』丸善出版，524-525ページ。

書 評

- 1993年 新崎盛暉・大橋薫編著『戦後沖縄の社会変動と家族問題』『社会学評論』第44巻第3号，335-336ページ。
- 1995年 井上順孝編『現代日本の宗教社会学』『宗教研究』第69巻第2輯，143-147ページ。
- 1997年 奥田道大編『都市エスニシティの社会学』『週間読書人』10月31日。
- 1998年 小林多寿子『物語られる「人生」——自分史を書くということ』『ソシオロジ』第132号，157-165ページ。
- 2000年 金泰泳『アイデンティティ・ポリティクスを超えて』『部落解放研究』第135号，95-98ページ。
- 2001年 奥田道大・鈴木久美子編『エスノボリス・新宿／池袋』『週間読書人』7月20日。
- 2002年 飯田剛史『在日コリアンの宗教と祭り』『図書新聞』7月27日。
- 2002年 渡辺雅子『ブラジル日系新宗教の展開——異文化布教の課題と実践』『社会学評論』第53巻第3号，427-429ページ。
- 2006年 濱谷正晴『原爆体験——六七四四人・死と生の証言』『大原社会問題研究所雑誌』第570号，64-67ページ。
- 2010年 坂井信生『聖なる共同体の人々』『西日本社会学会年報』第8号，127-128ページ。
- 2011年 渡戸一郎・伊沢泰樹編『多民族化社会・日本——〈多文化共生〉のリアリティを問い直す』『移民政策研究』第3号，141-143ページ。
- 2013年 安藤由美・鈴木規之編『沖縄の社会構造と意識——沖縄総合社会調査による分析』『西日本社会学会年報』第11号，105-107ページ。
- 2014年 福岡良明・野上元・蘭信三・石原俊編『戦争社会学の構想——制度・体験・メディア』『フォーラム現代社会学』第13号，169-171ページ。
- 2017年 佐藤郁哉『社会調査の考え方 上・下』『社会学評論』第68巻第1号，168-170ページ。

2020年予定 叶堂隆三『カトリック信徒の移動とコミュニティの形成——潜伏キリシタンの二百年』『社会分析』第47号.

書評リプライ

- 1995年 「書評に答えて」(桜井義秀氏『聖なるものの持続と変容』書評へのリプライ)『ソシオロジ』第124号, 156-159ページ.
- 2003年 「『民族関係における結合と分離』書評リプライ」(福岡安則氏の書評へのリプライ)『社会学評論』第54巻第1号, 124-127ページ.
- 2003年 「都市エスニシティ研究の地平と焦点を求めて」(青木秀男氏『民族関係における結合と分離』書評論文へのリプライ)『日本都市社会学会年報』第21号, 199-204ページ.
- 2016年 「書評に答えて」(永吉希久子氏『民族関係の都市社会学』書評へのリプライ)『ソシオロジ』第186号, 117-121ページ.

その他

- 1983年 「ふるさとがあれば帰りますよ」現代文化研究所『自動車とその世界』第198号, 2-3ページ.
- 1985年 「都会の子どもたちはコミュニティに帰ってくるか」現代文化研究所『自動車とその世界』第211号, 23-28ページ.
- 1985年 「安滝寺の七星祭」宗教社会学の会編『生駒の神々——現代都市の民俗宗教』創元社, 267-273ページ.
- 1985年 「朝鮮寺一覧」宗教社会学の会編『生駒の神々——現代都市の民俗宗教』創元社, 274-296ページ.
- 1986年 「大都市郊外のコミュニティ形成」(共著)『日本都市社会学会年報』第4号, 33-35ページ.
- 1989年 「民族関係の視点——労働者の受け入れをめぐる」『毎日新聞』5月11日.
- 1989年 「異文化とともに」(8回連載)『中国新聞』6月2-14日.
- 1992年 「地方文化の今日と明日(座談会)——西日本社会学会から」『毎日新聞』6月18日.
- 1993年 「跨越國境的青年人」羅東耀訳『第2回中日青少年問題研究会報告論文集』日中青少年問題研究会実行委員会(日本語版「国境を越える若者たち」『第2回日中青少年問題シンポジウム報告論文集』大阪市立大学, 54-61ページ).
- 1993年 「長寿社会のコミュニティ」兵庫県長寿社会研究機構『R I A S』第18号, 2-7ページ.
- 1998年 「大阪の国際化と外国人住民施策」共同研究「国際交流」チーム報告書『わたしのまちの外国人——自治体の外国人住民施策について考える』(財)大阪府市町村振興協会, 6-7ページ.
- 1999年 「外国人住民施策の具体化にむけて——'97近畿自治体調査をもとに」共同研究「国際化」チーム報告書『外国人住民施策の具体化』(財)大阪府市町村振興協会, 121-138ページ.
- 1999年 「【DOING SOCIOLOGY】民族関係のフィールドワーク」『ソシオロジ』第135号, 105-113ページ.
- 2000年 「生野に『民族関係』を求めて」日本基督教団『いくの——在日朝鮮人の生きる街 猪飼野』18-22ページ.
- 2000年 「もう一人の力道山——読書案内」大阪市立大学人権問題委員会編『人権問題ニュース』第30号, 2ページ(2011, 同編『人権問題の最前線』46ページに再録).
- 2002年 「大阪における都市コミュニティの現状と可能性——『エスニック・コミュニティ』の場合」大阪市政調査会『市政研究』第134号, 124-131ページ.
- 2002年 「社会調査の鍵」白谷秀一・朴相権編『実践 はじめての社会調査』自治体研究社, 36-37ページ.
- 2005年 「大都市と民族関係」大阪市立大学大学院文学研究科プロジェクト研究会編『現代都市大阪の社会・教育・景観』(都市問題研究「大阪市とハンブルク市をめぐる都市・市民・文化・大学」報告書, 第4分冊), 1-11ページ.
- 2005年 「大阪をく都心周縁インナーリングから読み解く——特集解題」『日本都市社会学会年報』第23号, 1-4ページ.
- 2006年 「『大阪の社会地図』を試みる——特集解題」大阪市政調査会『市政研究』第150号, 104-107ページ.

- 2006年 「大阪の市民力をつなぐ」大阪都市協会『大阪の「市民力」——多彩なネットワークでまちづくり』17-18ページ.
- 2006年 「(座談会)市民力とは、創造都市の原動力」(太田光昭, 甲斐賢治, 鈴木創と共著)大阪都市協会『大阪の「市民力」——多彩なネットワークでまちづくり』22-36ページ.
- 2009年 「在日韓国・朝鮮人の信仰と宗教」川村千鶴子・近藤敦・中本博皓編『移民政策へのアプローチ——ライフサイクルと多文化共生』明石書店, 202-205ページ.
- 2009年 「訃報——八木正先生を偲んで」『日本社会学会ニュース』第197号, 21-22ページ.
- 2010年 「特集『包摂と排除のアポリア——多文化状況でのエスニック・アイデンティティ』のコメント」『フォーラム現代社会学』第9号, 31-33ページ.
- 2011年 「学問と実践——市大の思い出」『有恒会報』大阪市立大学有恒会, 第191号, 29ページ.
- 2011年 「映っていないものが見えてくる。見たいものしか映らない?」『日本都市社会学会年報』第29号, 47-52ページ.
- 2012年 「進学のこと」『内藤莞爾先生の思い出——追悼文集』追悼文集刊行発起人会, 124-125ページ.
- 2012年 「『沖繩的なるもの』の現在——混合研究法の一試み」(共著)『社会と調査』第9号, 70-75ページ.
- 2014年 「巻頭言」『フォーラム現代社会学』第13号, 3-4ページ.
- 2014年 “Challenges for Urban Ethnicity Studies”, Japan Consortium for Sociological Societies(ed.), *Messages to the World: From Japanese Sociological Welfare Studies Societies*, Pp.235-237.
- 2015年 「文学部2000年代のアイデンティティ構築——『都市文化研究』の創造と展開」大阪市立大学文学研究科『都市文化研究』第17号, 114-118ページ.
- 2015年 「精神と魂の交感」一般社団法人社会調査協会: JASR オンライン>社会調査NOW>オピニオン
http://jasr.or.jp/online/content/opinion/opinion15_201505tani.html
- 2015年 「都市エスニシティ研究の理論的課題」関西学院大学『先端社会研究所紀要』第12号, 107-117ページ.
- 2016年 「【視点】民族関係論の射程」『ソシオロジ』第185号, 139-141ページ.
- 2017年 「平城山」『鈴木廣先生追悼文集』九州大学社会学同窓会, 39-42ページ.
- 2017年 「일본사회의 에스닉 관계——50년후의 미래에서 과거로」(日本社会のエスニック関係——50年後の未来から過去へ)『第60回韓国社会学会大会要旨集』93-98ページ.
- 2017年 「オモニハッキョ40周年を迎えて」社会福祉法人聖和共働福祉会『共働』第55号, 4-5ページ.
- 2018年 「第10回日本都市社会学会賞(磯村記念賞)受賞の言葉」『日本都市社会学会年報』第36号, 224-225ページ.
- 2019年 「【私の3冊】フィールドワークのひろやかな視界——かたよらず, こだわらず, とらわれず」社会調査協会編『社会と調査』第22号, 126-127ページ.

国際会議等

- 1994年 “Some Suggestions for Building-up the Safe Community for Elderly to Live in”, *Conference on Family, Human Resources and Social Development*, National Chengchi University, Taipei, The Republic of China.
- 2001年 “Association and Dissociation in Inter-ethnic Relationships: Ethnic Korean Society and Japanese Society in Urban Osaka Setting, Japan”. *Oxford Kobe Seminars: Symposium on Immigration Policy in Japan, EU and North America*, St. Catherine’s College, University of Oxford, Kobe Institute, Japan.
- 2004年 “Old Korean Residents in Japan and Their Religious Culture and Social Structure”, *International Academic Forum: Urban Culture in the Multicultural City*, The University of Gadjah Mada, Yogyakarta, Indonesia.
- 2006年 “The Capitalistic Urbanism and People in East Asian Mega-cities: A Statement of Problems”, *International Symposium: The Capitalistic Urbanism and People in East Asian Mega-cities: Focus on Migrant Workers and Inter-Ethnic Relationships*, Osaka City University, Osaka, Japan.
- 2009年 “Zur Frage der auslaendischen Arbeitskraefte in Ostasien und ihrer Volkszugehoerigkeit: Ein

- Staedtevergleich von Japan, Korea und Taiwan”, *Jubilee Symposium Celebrating the 20th Year Anniversary of Partnership between Osaka City University and Universitaet Hamburg: Cities as Topos — Past and Present*, Universitaet Hambrug, Hambrug, German.
- 2010年 “Over-urbanization and Mobile Generations in Okinawa”, *International Symposium: The Historical Formation of the City and Development of Urban Cultural Creativity*, Osaka City University, Osaka, Japan.
- 2010年 [keynote speech] “Family, Religion and Society for Female Migrants: Their Social Adjustment Process in Japan”, *International Conference on Female Life Course in a Globalizing Society*, National Chengchi University, Taipei, Taiwan.
- 2010年 [keynote speech] “Female Migrants’ Social Adjustment in Japan”, *International Seminar on City and Life: Comparative Studies of Society and Space in Japan and Korea*, University of Seoul, Seoul, The Republic of Korea.
- 2017年 [keynote speech] 「일본사회의 에스닉 관계——50년후의 미래에서 과거로」(日本社会のエスニック関係——50年後の未来から過去へ), 第60回韓国社会学会大会, ソウル大学.

国内学会

- 1977年 「創価学会入会の諸類型」第35回西日本社会学会大会, 熊本商科大学.
- 1979年 「五島キリシタン村落における集団改宗過程の一分析」第32回九州大学社会学会研究例会, 九州大学.
- 1979年 「五島キリシタン村落における集団改宗過程の一分析——集団改宗の研究(I)」第37回西日本社会学会大会, 鹿児島大学.
- 1979年 「集団改宗過程の原理に関する一考察——集団改宗の研究(II)」第11回西日本宗教学会大会, 太宰府天満宮.
- 1980年 「五島神道・仏教・基督教三村落の比較分析——集団改宗の研究(III)」九州人類学研究会例会, 九州大学.
- 1980年 「留学生の態度変容をめぐって」(共同発表)第38回西日本社会学会大会, 久留米大学.
- 1981年 「過剰都市化の社会学的研究——沖縄の社会構造と人口移動」(共同発表)第39回西日本社会学会大会, 山口大学.
- 1983年 「宗教的分化と社会的統合」第43回九州大学社会学会研究例会, 九州大学.
- 1983年 「地方都市における定住志向」第1回日本都市社会学会大会, 兵庫教育大学.
- 1984年 「朝鮮寺の調査から」第48回九州大学社会学会研究例会, 九州大学.
- 1984年 重点部会「現代社会と宗教」の指定討論者, 第57回日本社会学会大会, 龍谷大学.
- 1984年 「創価学会をめぐる人間類型」第38回日本行動計量学会月例シンポジウム「現代人の宗教意識と行動」大阪市立大学.
- 1985年 「大都市近郊のコミュニティ意識と社会意識」第54回社会分析学会研究例会, 九州大学.
- 1986年 「大都市郊外のコミュニティ形成」(共同発表)第4回日本都市社会学会大会, 九州大学.
- 1988年 「地域社会の民族関係」第64回社会分析学会研究例会, 九州大学.
- 1989年 「地域社会の民族関係——大阪市生野区を事例として」第62回日本社会学会大会, 早稲田大学.
- 1990年 「新宗教の階層的展開——その研究史通観」第71回社会分析学会研究例会, 九州大学.
- 1990年 「民族・エスニシティ関係の視点——在日韓国・朝鮮人の生活世界から」(シンポジウム「現代日本の都市社会と民族・エスニシティ」の招聘報告者)第8回日本都市社会学会大会, 常磐大学.
- 1990年 「新宗教青年層における呪術性と共同性——崇教真光の場合」第74回社会分析学会研究例会, 九州大学.
- 1991年 「巖島神社の西瀬戸内信仰圏」第49回西日本社会学会大会, 宮崎大学.
- 1991年 「日本におけるエスニック・コミュニティの生態研究」(重点部会「日本社会とエスニシティ——ボーダーレス時代のなかで問われる日本」の招聘報告者)第42回関西社会学会大会, 神戸大学.

- 1993年 シンポジウム「現代の都市社会への新しいアプローチ」の指定討論者，第11回日本都市社会学会大会，関西大学.
- 1994年 「民族宗教の相補的構成——大阪の韓国・朝鮮人社会を事例として」第45回関西社会学会大会，大阪大学.
- 1994年 「民族関係の生活史研究——在日韓国・朝鮮人の親族集団調査から」（共同発表）第67回日本社会学会大会，同志社大学.
- 1995年 「エスニック・コミュニティはいかなる方法で調査されるか」（テーマ部会「都市社会調査における質的方法と量的方法——優劣論争を超えるために」の招聘報告者）第13回日本都市社会学会大会，山形大学.
- 1995年 「宗教社会学は『オウムの真理』をとらえられるか」（シンポジウム「オウム現象を解読する」の招聘報告者）第89回社会分析学会研究例会，下関市立大学.
- 2000年 「『世代間生活史法』による民族関係と文化継承の研究」（共同発表）第51回関西社会学会大会，中京大学.
- 2000年 「在日韓国・朝鮮人社会と日本人社会の民族関係」（共同発表）第73回日本社会学会大会，広島国際学院大学.
- 2001年 「エスニシティの〈継承—獲得〉と〈顕在—潜在〉」第59回西日本社会学会大会，西南学院大学.
- 2001年 「エスニシティと社会調査」（シンポジウム「社会調査の多様性と可能性」の招聘報告者）第52回関西社会学会大会，桃山学院大学.
- 2004年 「質的調査の多様化と社会学教育」（テーマ部会「資格時代の社会調査と社会学理論」の招聘報告者）第62回西日本社会学会大会，宮崎公立大学.
- 2004年 「外国人労働者問題の国際比較」（特別部会「民族関係と外国人労働者問題に関する国際比較」の招聘報告者）第108回日本社会分析学会研究例会，台湾国立政治大学.
- 2005年 「外国人労働者に対する意識の国際比較——日本（大阪・北九州）・韓国（仁川）・台湾（板橋）」第78回日本社会学会大会，法政大学.
- 2006年 「社会調査教育と社会調査士資格」（「社会調査士制度に関するフォーラム」の招聘報告者）第57回関西社会学会大会，金沢大学.
- 2007年 「東アジア大都市の資本制文化と人間」第113回日本社会分析学会研究例会，県立広島大学.
- 2008年 「沖縄の過剰都市化と移動世代」第66回西日本社会学会大会，活水女子大学.
- 2009年 シンポジウム「包摂と排除のアポリア——多文化状況でのエスニック・アイデンティティ」の指定討論者，第60回関西社会学会大会，京都大学.
- 2010年 「沖縄の過剰都市化——再訪」第119回日本社会分析学会研究例会，九州大学
- 2010年 シンポジウム「都市の映像社会学」の指定討論者，第28回日本都市社会学会大会，日本大学.
- 2010年 「沖縄の過剰都市化——仮説『検証』の試み」第83回日本社会学会大会，名古屋大学.
- 2011年 テーマセッション「『生駒の神々』再訪」の指定討論者，第19回「宗教と社会」学会大会，北海道大学.
- 2012年 シンポジウム「社会的現実の変容と記憶の問題——〈記憶の社会学〉の可能性を問う」の指定討論者，第70回西日本社会学会大会，鹿児島大学.
- 2012年 基調報告「都市とエスニシティ——人口減少社会の入口に立って」（学会設立30周年記念セッション）第30回日本都市社会学会大会，立教大学.
- 2012年 基調報告「鈴木社会学と宗教」（特別部会「鈴木社会学の継承と発展」）第124回日本社会分析学会研究例会，久留米大学.
- 2014年 「生野コリアタウンは『韓流ブーム』にのって——阪神圏商店街実態調査から」（共同発表）第5回こりあんコミュニティ研究会年次大会，大阪府立大学.
- 2019年 シンポジウム「若者の移行過程——沖縄から，公営団地から」の指定討論者，第138回日本社会分析

学会研究例会, 鹿児島女子短期大学.

講演 (近年)

- 2013年 「『都市文化研究』の創造と展開——文学部2000年代をふりかえって」大阪市立大学文学部創設60周年記念学術シンポジウム (大阪市立大学文学研究科都市文化研究センター主催).
- 2014年 「ライフヒストリーを学ぶ人のために①~③」多文化福祉研究会公開連続講座 (5月30日, 6月27日, 7月25日).
- 2014年 「都市とエスニシティ——人口減少社会の入口に立って」2014年度第2回シリーズ先端研セミナー (関西学院大学先端社会研究所主催).
- 2014年 「生活史で解く民族関係の可能性」同志社大学社会学部社会学科講演会.
- 2015年 「谷富夫先生の社会学講座——民族関係の社会学①~③」多文化福祉研究会公開連続講座 (5月29日, 6月26日, 7月31日).
- 2015年 「社会学から見た共生社会」大阪市私立保育園連盟生野ブロック研修会.
- 2015年 「生活史研究の方法と実際」大阪市立大学大学院創造都市研究科共生社会研究科博士課程・修士課程合同研究会.
- 2016年 「生野オモニハッキョの過去, 現在, 未来」エスニック・コミュニティ研究会+包摂型社会研究会合同研究会.
- 2017年 「少子社会と多様性」大阪市私立保育園連盟生野ブロック研修会.
- 2017年 「多様性社会と都市社会学①~③」多文化福祉研究会公開連続講座 (5月26日, 6月23日, 7月21日).
- 2019年 「フィールドワークのひろやかな視界」北九州市立大学大学院社会システム研究科特別講演会.
- 2019年 「沖縄の人と社会」神戸学院大学人文学部〈シリーズ 沖縄学へようこそ〉招待講演.